

IRIDeS

Newsletter

International Research
Institute of Disaster Science
Tohoku University

冬号
WINTER
2024
vol.04

TOHOKU UNIVERSITY
IRIDeS
東北大学災害科学国際研究所



Topics

Feature シンポジウム「関東大震災 100 年の節目に考える『これからの防災』」

企画展「仙台に残されていた関東大震災の記録：100 年の時を経て特別公開」開催

Activity 「障がい者と災害」連続セミナー開始 一災害時に“誰一人取り残さない”社会に向けて

Experiment 多賀城市にて「小型モビリティ」による高齢者避難を実証実験

Event 「片平まつり 2023」で体験型企画を実施

ご挨拶

IRIDeS所長に就任し、初年度の後半に入りました。今年度、私が特に力を入れ、進めている活動の一つが“誰一人取り残さない”インクルーシブ防災です。

東日本大震災では、障がいのある方々は被災者全体より高い死亡率を示す傾向がありました。“誰一人取り残さない”は、持続可能な開発目標SDGsの根底をなす理念です。災害時に脆弱性のある人々も含む、“誰一人取り残さない”防災（インクルーシブ防災）は、仙台防災枠組でも重要なコンセプトになっており、災害科学でこの課題に取り組んでいくことは極めて重要です。

IRIDeSは、今年度「障がい者と災害」連続セミナーを開始しました（関連記事：P3）。このセミナーでは、毎回さまざまな障がいのある当事者や専門家を講師にお招きし、障がい者の平時のニーズや災害発生時の課題についてお話しいただき、実際に防災を進める具体的な方向性を所員と議論しています。今後セミナーの内容を、障がいのある方々の個別避難計画などにつなげていきたいと考えています。

また、2023年10月11～13日には、インドネシア・ジョグジャカルタでアチェ国際ワークショップおよびエキスポ（AIWEST-DR 2023）が開催され、私を含むIRIDeSの研究者も参加しました。この時、仙台から医療的ケア者（恒常的に医療的ケアを必要とされる方）の当事者とそのご家族にも参加いただき、東日本大震災の被災経験をお話しいただきました。このことで、障がいがあるとどれだけ日常生活や移動に困難を伴うか、また、災害時に命の危険が発生するかを実感しました。同時に、当事者の方の勇気と問題提起に多くの人たちが触発され、国際交流も促進された大変意義ある機会となりました。

インクルーシブ防災は重要ですが、「インクルーシブ防災は、障がい者など、災害時に脆弱性がある人々だけが対象なわけではない」ということにも、留意する必要があります。「インクルーシブ防災は、われわれ全員のための防災」です。すべての人にはそれぞれ配慮すべき個別の事情があります。災害で誰一人取り残さない、あるいは取り残されないようにするためには、まず最も困っている方々を対象に対策立案とその実践を行い、そこで得られた知見を徐々に他の方々に展開していくことが、最も早くかつ最も効果的と考えられます。ぜひ皆様にもわがこととして、一緒に考えていただきたいと思います。

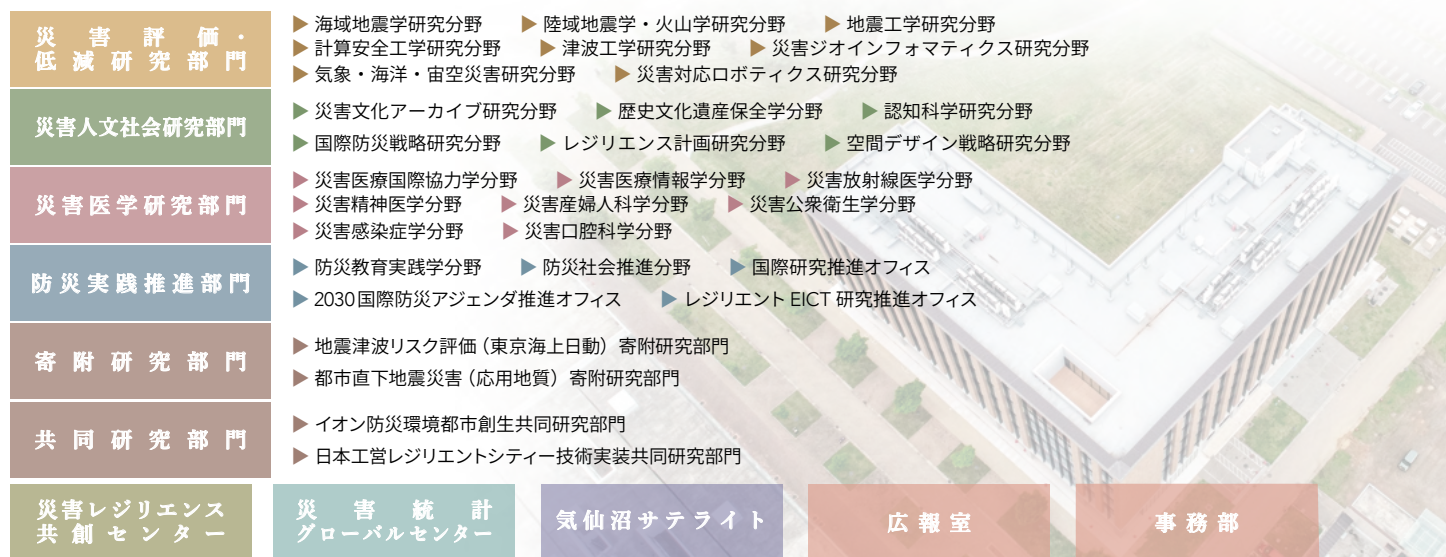
IRIDeSは、「被災された方のため、被災される方のため、知の泉を汲み、実の森を育む」研究所を目指してまいります。今後とも皆様のご支援・ご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。



東北大学 災害科学国際研究所 (IRIDeS)

所長 栗山 進一

IRIDeSの組織体制



CONTENTS

- 1 ▶ ご挨拶
- 1 ▶ IRIDeSの組織体制
- 2 ▶ 特集 関東大震災から100年「これからの防災」シンポジウム・企画展開催
- 3 ▶ 活動「障がい者と災害」連続セミナー開始
- 4 ▶ 実験 「小型モビリティ」による高齢者避難を実証実験
- 4 ▶ 行事 「片平まつり2023」で体験型企画を実施
- 5 ▶ 教職員紹介
- 5 ▶ ご案内・お知らせ

関東大震災から100年の節目に 「これからの防災」を考えました

1923年9月1日に発生した関東大震災は、日本の災害史上における重要な節目でした。それから100年が経過した今年度、IRIDeSは、関東大震災や東日本大震災の教訓を今後の防災につなげることを目的に、シンポジウムと関連企画展を開催しました。

シンポジウム

「関東大震災100年の節目に考える『これからの防災』」 (第84回 IRIDeS オープンフォーラム)

2023年9月28日(木)、IRIDeSは関東大震災に関するシンポジウムを一般公開・ハイブリッド形式で開催しました。冒頭で2つの特別講演が行われ、遠田晋次教授が今後首都直下で起こりうる大地震に関して理学の観点から解説した後、村尾修教授が近年の首都圏における災害リスクについて都市防災の立場からまとめました。

続いて若手研究者を中心に最新の研究発表が行われました。トピックは、「これまで注目が不十分であった関東地震が引き起こした土砂災害」、「関東大震災と地震保険の発展」、「関東大震災後の米国からの支援に対して送られた礼状を国際防災の観点から分析する」など、多彩なものとなりました。また、栗山進一所長をファシリテーターに、「1923年関東大震災と2011年東日本大震災の教訓を、次の災害にどう生かすか」を話し合う学際的なパネルディスカッションも行われました。

このシンポジウムは、関東大震災について新たな視点を提供しつつ、次の大災害について多角的に考える機会となりました。当日は、会場・オンライン双方を含めて全国から約160人の参加がありました。



パネルディスカッションの様子

企画展

「仙台に残されていた関東大震災の記録： 100年の時を経て特別公開」

2023年9月15日～12月22日、関東大震災に関する企画展が、IRIDeS棟にて一般公開されました(主催:IRIDeS、NPO法人20世紀アーカイブ仙台、歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業東北大学拠点。共催:東北大学史料館)。この企画展では、仙台で保存されていた関東大震災に関する貴重な映像や当時の記事が展示されました。また、IRIDeSの歴史文化遺産保全学分野の研究者らが、関東大震災が仙台・宮城へもたらした影響を考察したパネルも設置されました。パネルには、当時の『河北新報』記事等から「被災地への出勤」「不逞鮮人」被災地の混乱の波及」「東北帝国大学と大震災」など9つの重要なテーマが抽出されてまとめられ、企画展に訪れた人たちが見入っていました。



企画展の様子

このたびのIRIDeSの一連の活動は、「次の関東大震災」に備える重要性を再確認するものでした。また従来、関東大震災は東京・神奈川などの被災地を中心に議論されることが主でしたが、その影響は日本全国、海外にまで及ぶことも指摘されました。今回の100年の節目に新たに掘り起こされた関東大震災に関する事実もあり、IRIDeSの研究者はその後も引き続き研究を続けています。

IRIDeS で「障がい者と災害」連続セミナーを開始 —災害時に“誰一人取り残さない”社会に向けて—

東日本大震災では約 2 万人の方々が犠牲となりましたが、中でも、障がいのある方々は市民全体より高い死亡率を示す傾向がありました。IRIDeS の災害レジリエンス共創センターは、次の大災害発生時に「障がい者を含むすべての人々が助かる防災」を目指し、今年度、「障がい者と災害」をテーマとした所内連続セミナーを開始しました。セミナーでは、毎回、障がいの当事者と専門家を講師に迎え、IRIDeS 研究者らが障がい者の平時のニーズや災害発生時の課題に関して理解を深めるとともに、今後、実際に防災を進めていくための具体的な方向性を議論しています。



高橋桃子氏・高橋実和子氏

第 1 回セミナーは、「医療的ケア児・者」を主題に 2023 年 6 月 19 日に開催されました。医療的ケア児・者は、日常生活で常に人工呼吸器や痰の吸引などを必要とします。セミナーでは、医療的ケア者である高橋桃子氏が車椅子で参加し、高橋実和子氏（桃子氏のお母さん）は「普段は積極的に外出しているが、東日本大震災の際は、エレベーターが止まり在宅避難を選択せざるを得なかった。助けも得られず、食糧の確保にも困った」と体験を話しました。災害時は、医療機器を稼働させるための電源確保を始め、さまざまな課題に対応する必要があります。

第 2 回セミナーは 2023 年 7 月 19 日に実施され、日本盲導犬協会仙台訓練センターの職員と、視覚障がい者である若山崇氏と鈴木祐花氏が講師として登壇しました。若山氏・鈴木氏は、平時は盲導犬によって行動範囲を広げ、音声読み上げ機能があるアプリも活用して情報を得ています。また、ICT の使い方を他の視覚障がい者へ教える活動もしています。一方で、「災害時は、普段歩き慣れている道でも状況が変わるため、盲導犬がいたとしても、誰かの助けが本当に必要になるだろう」と鈴木氏は述べました。



若山崇氏・鈴木祐花氏と盲導犬



松崎丈氏

第 3 回は「聴覚障がい・盲ろう」を主題に 2023 年 11 月 14 日に実施されました。聴覚障がい者である松崎丈氏は手話と文字を用いて講演を行い、東日本大震災の際、聴覚障がい者に被災状況が届きにくかった課題等を指摘しました。また、視覚と聴覚の両方に障がいがある「盲ろう者」の小山賢一氏は、盲ろう者は「コミュニケーション」「情報入手」「移動」に困難を抱え、人による支援が必要であると述べました。小山氏は東日本大震災で被災し、避難所生活では、身体的にも心理的にも動けず、極めて厳しい状況に置かれました。

計 3 回のセミナーを通じ、IRIDeS の研究者らは、障がい者の災害発生時のリアルな課題の一端を目の当たりにしました。また、障がいは多様であるため一律な防災の解決法はなく、個別に検討していく必要があることを実感しました。障がい者はしばしば社会的弱者と位置づけられがちですが、一方で、多くの障がい者はさまざまな形で社会に参画しています。ICT の活用により、障がい者のコミュニケーションをめぐる状況も発展を続けています。セミナーでは、障がい者を助ける技術開発や制度についても議論されました。今後 IRIDeS は、障がいの当事者や行政、専門家と連携し、個別避難計画立案・実施に関する支援等を進めていく方針です。



小山賢一氏

多賀城市にて 「小型モビリティ」による高齢者避難を実証実験

「小型モビリティ」とは、小回りが利く車両のことです。2023年9月1～2日、多賀城市において、この小型モビリティを利用した避難に関する実証実験が行われました。「歩行移動が困難な方々（例えば、高齢者）にとって、小型モビリティを使用することが避難行動の助けになるか」を確認するのが主な目的です。実験には、トヨタ自動車が開発した、C+WalkSという、免許不要で操作がシンプルな車両を用いました。

この実証実験に参加した市民の方々は、テストコースを運転した後、運転に関する感想や、実際の避難に役立つか等の観点でアンケートに回答しました。実際の災害時の小型モビリティの活用には瓦礫の踏破性などまだ課題もありますが、多くの参加者から、小型モビリティの防災にとどまらない有用性や可能性について肯定的な評価も得られました。

この実験は、多賀城市とIRIDeSの防災に関する連携協定、トヨタ自動車株式会社と東北大学の包括的連携協定に基づいて実施され、IRIDeSからは柴山明寛准教授、齋藤玲助教、鎌田健一特任教授が参加しました。



「小型モビリティ」による実証実験の様子

「片平まつり 2023」で体験型企画を実施

「片平まつり」は、東北大学の研究所・センター等が、小中学生を主な対象として1998年から原則隔年で開催してきた科学イベントです。メイン会場は東北大学の片平キャンパスとなりますが、青葉山新キャンパスにあるIRIDeSも主催者として参加しています。

2023年10月7日、「集まれ！未来の科学者たち！」をテーマに、「片平まつり2023」が開催されました。IRIDeSは、「答えてみよう！聞いてみよう！実験やゲームで学ぶ災害の科学」と題し、免震建物の模型実験や「ぼうさい宝探しゲーム」など、災害科学や防災に関する5つの体験型企画を実施しました。

IRIDeSの企画のうち、村尾修教授らが実施した「僕たちの災害時避難所空間をつくって、避難所生活を体験してみよう！」



避難所間仕切りシステムの組み立て

では、近年、多くの避難所で活用されている「紙管と布を使った間仕切りシステム」（建築家でIRIDeS特任教授（客員）の坂茂氏が考案したもの）を子どもたちと一緒に組み立て、体験しました。また、おいしい簡単非常食レシピの提案や防災キャンプグッズについても紹介しました。

今回の片平まつりは、感染症対策として完全事前予約制・抽選制となり、IRIDeSの5企画には計185名が当選しました。前回の「片平まつり2021」はコロナ禍を受けてオンラインで開催され、前々回の「片平まつり2019」は台風のため中止となっていたため、今回の「片平まつり2023」では、2017年以來の対面開催が実現したこととなります。当日は、来場した子どもたちと保護者が、IRIDeS教職員と一緒に企画を楽しんでいました。

教職員紹介

IRIDeSで活躍中の教職員をご紹介します



うばうらみちお
姥浦道生 教授
UBAURA Michio

空間デザイン戦略研究分野

もともとの専門は都市計画・まちづくりで、東日本大震災を機に、防災・復興まちづくりにも広がってまいりました。富山の出身で、仙台に来たのは約16年前です。趣味はスキー、“鉄”(時刻表が中心でした)、飲み会などですが、飲み会については時々やり過ぎ、反省の日々を送ることも少なからずです。4月に工学研究科から来た新入りですが、よろしくお願致します。



パク ヘジョン
朴 慧晶 助教
PARK Hyejeong

災害医療情報学分野

安全な社会・地域を作ることを目指して、自然災害に起因する産業事故(Natech)のリスクマネジメント・リスクガバナンスに関する研究を進めています。韓国出身で、看護師として約10年の勤務経験があります。趣味はハイキング、運動、読書、料理などです。仙台に来て1年になりました。引き続きどうぞよろしくお願いたします。



みずの たかえ
水野貴江 主任
MIZUNO Takae

事務部用度係

主に物品等の調達、管理に関する業務を行っています。出身地は宮城県富谷市(私が住んでいた頃は富谷町)です。今年の初めにカメラを衝動買いしてから写真が趣味になり、週末は被写体を求めて歩き回っています。微力ながら、災害研の研究・教育等に貢献できれば幸いです。どうぞよろしくお願いたします。

ご案内・お知らせ

今年度、「IRIDeS 金曜フォーラム」は「IRIDeS オープンフォーラム」へ名称変更されました。

今後も、研究所の活動を所内外と共有しながら、被災地の復興と次の災害への備えをオープンに議論してまいります(関連記事:P2)。ぜひご参加ください。

詳細は **HP** にて <https://irides.tohoku.ac.jp>



さいがい犬 イリ



ACCESS

東北大学災害科学国際研究所

〒980-8572 仙台市青葉区荒巻字青葉468-1

仙台市地下鉄東西線「青葉山駅」南1出口から徒歩3分

IRIDeS 広報室

お問い合わせ

電話 ▶ 022-752-2049

メール ▶ irides-pr@grp.tohoku.ac.jp

編集後記

IRIDeS発足後初めての企画展「仙台に残されていた関東大震災の記録：100年の時を経て特別公開」は、約3か月の間に国内外から多くの方が訪れ、好評をいただきました。

今後も展示に関する皆さまのご要望など、お気軽にお寄せください。

表紙写真について

左上 ▶ 関東大震災企画展の映像より

(提供：NPO法人20世紀アーカイブ仙台)

右上 ▶ 日本から米国へ宛てた関東大震災支援に対する感謝状をまとめた冊子(2023年8月3日、米国バーモント州プリマスノッチにて開催されたカルバン・クーリッジ元アメリカ合衆国大統領就任100周年記念催事にて。撮影：川内敦史准教授)

左下 ▶ 小型モビリティによる高齢者避難実証実験の様子

右下 ▶ 片平まつり



IRIDeS Newsletter 2024 冬号 vol.4 [2024年1月発行]

発行 東北大学災害科学国際研究所

取材・文章 主担当 中鉢奈津子

編集 広報室(中鉢奈津子・鈴木通江・福島愛子・小森光) デザイン/印刷 有限会社 明倫社